

強化堤防の現状。下段のヤナギは植樹が進行中で、シーシャムの樹林帯は 12 月まで待つ。2017 年 9 月 26 日





洪水浸入河道は完全に埋めつぶされ、堤防下流側では河幅の拡大（＝ショートカットの掘削）が続けられている。砂利の量は膨大で、同時に堤防の主要材料として使用される。当然輸送距離が短縮するため、短期間で大きな物量投入ができています。これは予期せぬ幸運だった。2017 年 9 月 26 日



B区主幹水路、2200m地点の橋6の建設。2017年9月26日





主幹水路の工事先端工事（ライニング）は約 3000m地点に迫っている。2017 年 9 月 26 日





用水路底のライニング作業の後を追いかけるように水路側壁の蛇籠工が進む。2017 年 9 月 26 日





サイフォン予定地（3170m～3200m地点）。用水路は排水路1をくぐり、調節池Ⅲに送られる。同地は1.5 km地点からの旧河道であり、カチャラを襲う山からの鉄砲水の流出先でもあった。このため、周辺は常に湿潤で、耕作ができなかった。1500m 地点の河道閉塞で川からの水は途絶え、一見耕地として利用できるようになっている。しかし、①集中豪雨による鉄砲水の流路、②カチャラ村の排水路、③大洪水の溢水時の逃げ道、として広く保つ。2017 年 9 月 26 日





調節池 III 予定地。洪水の通過する河道（排水路 1）を部分的に埋め立てて造成を開始した。池の川側堤防はがっちりと築き、現在の洪水防御壁を移す。1500m 地点の防御を固めた現在、実際には大きな洪水は来ないと思えるが、幾世代にもわたって続いた洪水への恐怖が村民の深奥に焼きついている。やはり見た目も大事で、不安を掻き立てるような合理主義はよくない。水路は安心して眺められるものでなくてはならない。クナール河へ戻る排水路は現在乾いているが、夏季には湿地化する。この池の完成が工事の焦点となっている。これによって、排水路の水を利用しているタラーン村は安定灌漑域に入り、湿地化の現状から脱することができる。2017 年 9 月 26 日





用水路最終点（4665m）。クナール河を二分した分流発生（2015年）の、しめきり堤の位置。現在河道は乾き、浸透水が貯留している。強化堤防（約200m）を建設したのち、100mを調節池Ⅳに使い、末端からベラ村に送水できる。次の増水期に入る直前、2018年3月～4月までには見通しを期待している。

2017年9月26日





改修工事を待つカマ第一堰、下流側から見る。案外安定してはいるが、最終的な詰めで決着をつけるべきだ。工事に際しては交通性の確保がカギとなるので、対岸ベスード側から中洲まで架橋、改修の便を図る。





カマ第二堰の現在。例年より少ないとはいえ、十分な水量を送り続けている。対岸砂州との接合部がくりかえし破たんしたが、過去 3 回にわたる改修で安泰となっている。堰と砂州の間は、幅約 30m 四方に巨礫が敷き詰められていて、2015 年冬以後は工事が行われていない。





対岸ベスード側の河道。浅い傍流が護岸沿いに流れている。ここに架橋すれば、以後の改修を何十倍も易しくする。





ミラーン堰の現在。異常低水位で例年なら渇水に陥るが、可動堰の威力で十分な取水ができています。粒子の細かい砂礫の堆積が起きている。これは取水門手前約200mほどが緩流となって水深も浅いためだ。しかし、目くじらを立てるほどのものでなく、増水期に流される。砂州は柳枝工で固定され、殆ど動かない。

2017年9月27日





ガンベリ主幹排水路は最後の詰め段階で、側壁の籠積みを約 400m 残すのみ。2017 年 9 月 28 日

